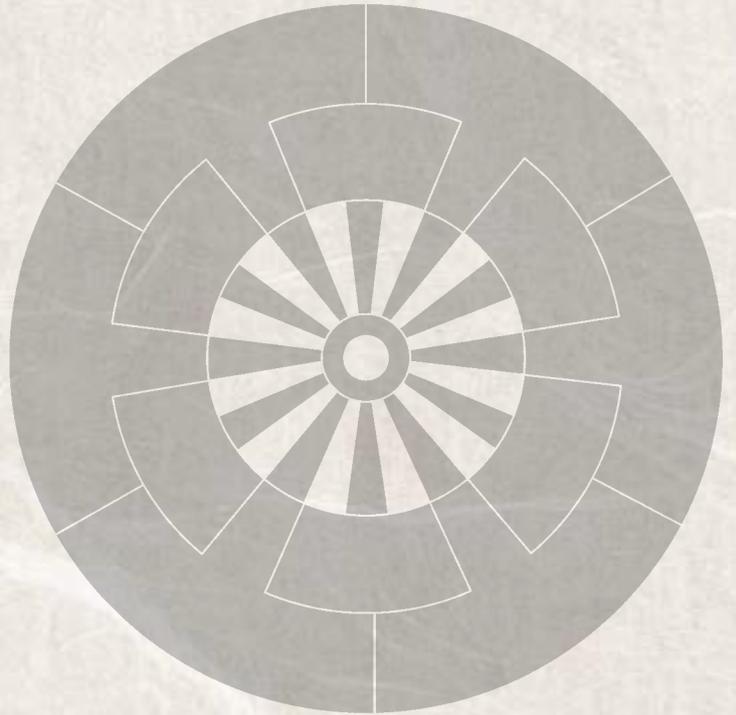


祝う・学ぶ・伝える **高田** 開府400年

— 高田開府400年祭実行委員会事業報告書 —





高田開府400年祭実行委員会事業報告書

目次

ごあいさつ	4
フォトメモリー	6
高田開府400年祭実行委員会について	14
高田開府400年祭実行委員会の軌跡	16
平成25年度事業 ～高田開府400年祭に向けた機運醸成～	
記念講演事業	18
集客イベント事業	19
企画展等事業	20
歴史記録事業	22
次世代継承事業	22
広報宣伝事業	23
平成26年度事業 ～高田開府400年を祝う・学ぶ・伝える～	
高田開府400年祭	
前夜祭記念講演会・記念式典	24
記念フォーラム「高田城と城下町」・城下町高田わくわく“楽市”2014	25
高田開府400年記念花火大会	27
高田城土塁探検ウォーク・高田城本丸柵形土塁発掘調査現地見学会	28
五郎八姫のお輿入れ行列・市民祝祭パレード	29
企画展等事業	32
歴史記録事業	33
集客イベント事業	35
次世代継承事業	36
広報宣伝事業	38
高田開府400年記念市民活動支援事業	39
平成27年度事業 ～高田開府400年を学ぶ・伝える～	
さくらフォーラム in 上越	40
桜プロジェクトJ（高田公園の桜を100年後に残す協働事業）	41
歴史遺産巡り・歴史継承事業	42
高田城土塁探検ウォーク・忠輝公まつり	43
高田開府400年記念花火大会・「忠輝公&五郎八姫」イメージイラストコンテスト	44
「忠輝公&五郎八姫」キャラクターコンテスト・高田開府400年記念市民活動支援事業	45
三城物語検定・辻標設置事業	46
高田開府400年記念フォーラム～高田開府450年、500年にむけて～	48
資料編	50



高田開府400年記念事業を振り返って

高田開府400年祭実行委員会

会長 植木 宏

雪国越後の高田平野に忽然と近世の大城郭が出現しました。それは、かつて北陸地方の雄といわれた上杉氏の春日山城の地位を継承した江戸幕府が、全国統治に至る最後の拠点城の一つとして築いた「高田城」でした。初代藩主に徳川家康の実子6男、松平忠輝公が入封しました。

江戸時代、越後の中心として257年間の藩政時代を経た高田城とその城下町は、時が遷り、2014（平成26）年、高田開府400年を迎えました。世紀に一度という節目の年に巡り合わせた上越市は、平成24年12月23日、高田開府400年祭実行委員会を立ち上げました。

実行委員会は、開府400年を歴史的な一大事業として捉え、過去の300年祭、350年祭をも参考にして、記念事業の実施年を本祭年とその前後の年を合わせ、平成25年度から平成27年度に至る3年間とし、1年目は機運醸成の年、2年目は本祭の年、3年目は未来へ繋げるまとめの年と位置付けました。

また、この事業を通して、市民が共に心を繋いで、まちの成立ちや伝統文化に接し、愛着のもてる心を育み、次世代に継承できるような400年祭を心掛けました。さらに、歴史と現代がともに息づく新たなまちづくりの原動力となり、全国に発信できればとも考えました。記念事業の内容は、「祝う・学ぶ・伝える」を基本とし、市・実行委員会・市民団体がそれぞれ企画する事業を統合し、「高田開府400年記念事業」として官民一体となって実施いたしました。

高田城完成の日とされる7月5日を中心に、7月4日から6日にかけて実施した「高田開府400年祭」では、5万人を超える市民や観光客にご来場いただき、前夜祭記念講演会や記念式典、記念フォーラムをはじめ、城下町高田わくわく“楽市”や市民祝祭パレード・五郎八姫のお輿入れ行列、高田城土塁探検ウォーク、記念花火大会などが賑々しく行われました。特に記念フォーラムでは、次の開府450年祭の主役であり、開府500年への伝達者となる市内の中学生が中心となり、「10代の君たちへーあの街 この街 あの城 この城ー」をテーマに、大人たちが温かく見守る中での討論が行われたことは、大きな成果であったものと考えております。

3年間の中で多彩に繰り上げられた100を超える事業を通して、事業に参加された皆様とともに、高田開府400年を祝い、楽しみ、学び、未来へと発信することができたものと思っております。ここに、市民の皆様をはじめ、この事業に携わっていただいた実行委員会関係者の皆様に対し、改めて深く感謝を申し上げる次第であります。

今般、当実行委員会では、3年間にわたり実施してきた高田開府400年記念事業の内容や成果を、思い出の写真などを中心にして、報告をかねた「記録誌」としてまとめさせていただきました。高田開府400年記念事業を振り返っていただくとともに、次の高田開府450年、500年に繋ぐ資料になれば幸いです。



高田開府400年祭実行委員会事業報告書発刊に寄せて

上越市長

村山 秀幸

第十三師団の高田入場を記念して在郷軍人会により2,200本の桜の苗木が植えられたのは1909年(明治42)のことです。それから100有余年、市民が大切に守り育ててきた高田城址の桜は、このまちを美しく彩り、賑わいと活気を私たちにもたらしてくれています。このことも、高田開府400年の中の大切な1ページであります。私たちのまち上越市は、100年に一度の大きな節目を祝い、学び、今、次の50年、100年に向けて歩みを進めています。

高田開府400年祭実行委員会の皆様には、平成24年12月の実行委員会設立から3か年にわたり様々な記念事業を実施いただきました。皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。

皆様の取組が大きな推進力となり、市民の皆さんの間でも、それぞれの地域で、様々な取組が展開されました。中には、中学生も参加してこれからのまちづくりを語り合うフォーラムなどもありました。それらの取組は、単なる寿ぎだけの祭りではなく、子どもたちから大人まで市民の皆さんが様々な活動を通じてふるさとの来し方を振り返り、その魅力、価値を改めて見出すとともに、身分差別をはじめとする人権に関わる問題など歴史の教訓を受け止め、行動していくことの大切さを私たちが心に刻む大切な機会となったものと思っております。

私たちは、先人がそうしてきたように、未来のふるさとの姿を思い描きながら、英知を結集し、目の前にある課題に挑み、その解を導き出していかなければなりません。そのうえで、私たちは、ふるさとの未来を、後に続く世代につなぎ託していくことになります。

開府400年に立ち会った中学3年生は50年後には65歳です。その時、「50年前に私たちが関わった400年祭があったね」「まちはこんなに変わって、あの時語り、みんなで思い描いた未来は今だよ」などと振り返ってもらえるような、人と人の繋がりが核となったまちづくりが続いていくことを願っています。

結びに、3年間の高田開府400年記念事業に多大なるご支援と、惜しみないご尽力・ご協力をいただきました実行委員会の皆様、関係者の皆様、そして、様々な取組を行われた市民の皆様お一人おひとりに重ねて深く感謝と敬意を表すとともに、未来へつなぐまちづくりへのお力添えをお願い申し上げます。高田開府400年祭実行委員会事業報告書発刊に寄せてのごあいさつといたします。